

## 都市現象の解説 その1

都市の諸要素が変わることに関する一考察

○ 正会員 白鳥尚子\*2  
同 渡辺 治\*1  
問庭治文\*3

## 1 はじめに

「都市が変容する」という言葉はよく使用される。しかし、ものの変化は、卵が床に落ちて砕けたままでいるように、 $A \rightarrow B$ と変化が停止してしまうような性質の変化と、物価のように $A \rightarrow B \rightarrow C$ と変化し続けるもの、または株価のように $A \rightarrow B \rightarrow A'$ と波形的な正確を持つ変化の仕方を示す変化もある。

変化には必ず原因があり、それに基づいた結果が連結している。本論では、都市に見られる種々の変化の性質を原因を定義することから始まり、既成に観察される変化とを連結させる作業を通じて、「変わること」に関する考察を行い、都市の諸要素の変容のメカニズムを理解する上で役立てようとする。

## 2 都市を変容させる原因の定義

都市計画上扱う変容は資料の入手上、統計上に現れてくるものを対象としていることが多い。そういった変化は、多人数がの傾向が現れてくる。また、多人数つまり、公共性の高いものを対象に公的機関は公共交通の拡充や建築法規に改正を行うので、結果的に傾向として捉えられる変化は、大多数の共通な行動形態によって支えられていると定義できると考える。

以上の根拠を基にして挙げた都市での共通行動を仮に列挙したものが、表1の「行動内容」である。また、行動はある空間に関連して生じているので、想定される場所を表1の「行動場所」に列挙した。

## 3 原因行動の現象化、連鎖反応

例えば原因行動A1の通勤が引き起こす交通渋滞は、原因行動の「現象化」と定義づける。その現象がまた次の現象を引き起こす場合、例えば、交通が集中している箇所で商店が発達するといった現象は、「連鎖反応」であると定義づける。ここでは渋滞に対して公共機関が行うような公共交通又は道路の拡充のような行為も連鎖反応の範疇として捉えている。表1で列挙した行動内容から考えられる現象化・連鎖反応を列挙したのが、表2・3である。これらは無作為的且つ網羅的にピックアップされた。

## 4 同時性と同場性

これまでの作業上気付くことは、原因行動が現象化する時に必要とされることは、原因行動が、同時的に生じることと、ある程度限定された空間で生じるとつまり同場的であることである。つまり、表2では時間スケール毎に分類してあるように、現象として捉えられる為には、同時間または表1の行動場所のように同場的でなくてはならない。これは、通勤のようになかなか同時に同場性を強く示すものもあれば、表1のA11の子供を生むという行為のように、新興住宅地でなくては、同場性が生じないが、都市全体の傾向としての現象で捉えられるものがある。

## 5 現象相関連携図

図1に示す連携図は表2の行動・現象相関関係をそのまま繋ぎ合わせたものである。行動から、現象そして次の現象に至る連結の数が増す程、相関は非常にあやしいものにはなるが、現象同士の連携を理解する上での手掛かりにはなる筈である。

## 6 現象の類型化

図2に示す現象の類型化は、①時間的・場所的な集中現象を単に示すもの、②現象が住宅地での物的変容となっているもの、③現象が住宅地以外での物的変容となっているもの、④空間の意味の変化として定義される現象、の4種類の分類して図1を色分けしてみた。

この図は、各居住者の都市居住する上で通常起こりうる行動が通常言われている種々の都市現象へと移行していく流れを示している。特に空間の意味が変化することに注目しているのは、その空間にある計画的可能性があると感じているからである。

## 7 まとめ

ここで紹介した内容は、これから種々の現象に関してより考察を進める上での前作業である。行動内容の列挙の仕方及び、現象との連結の仕方は、一見して無作為的であるが、常識として理解可能な範囲に留めてある。この不正確さは現象が多様な因果関係で成り立っていることを理解する上では重要ではないと考えた。

	行動	行動主体	行動内容	行動場所
日	A 1	通勤者	通勤に伴う移動行為	道路上、地下鉄、電車、駅
	A 2	不特定	ショッピング、社交に伴う移動行為	道路上、地下鉄、電車、駅
	A 3	不特定	ショッピング、社交	都心の商業地区
	A 4	労働者	働く	都心の業務地区
	A 5	学生	通学に伴う移動行為	道路上、地下鉄、電車、駅
	A 6	主婦	日常の買い物	近隣商業地区、路上
週	A 7	不特定	レジャー	道路上、地下鉄、電車、駅 (郊外)
年	A 8	不特定	除雪	家の外
世代	A 9	労働者	共同住宅に住む	共同住宅の1室
	A 10	大学生	家から共同住宅に移り住む	共同住宅の1室
	A 11	若夫婦	子供を生む	共同住宅の1室・家
	A 12	子供	家を離れる	共同住宅の1室・家
	A 13	家族	家を出る (転居)	共同住宅の1室・家

表1 公共行動の定義

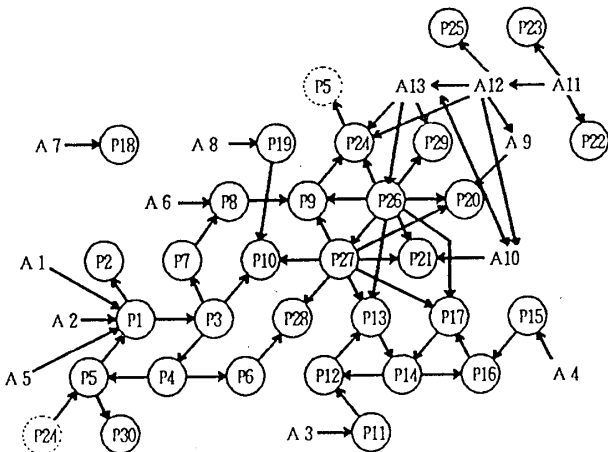


図1 行動・現象相関連携図

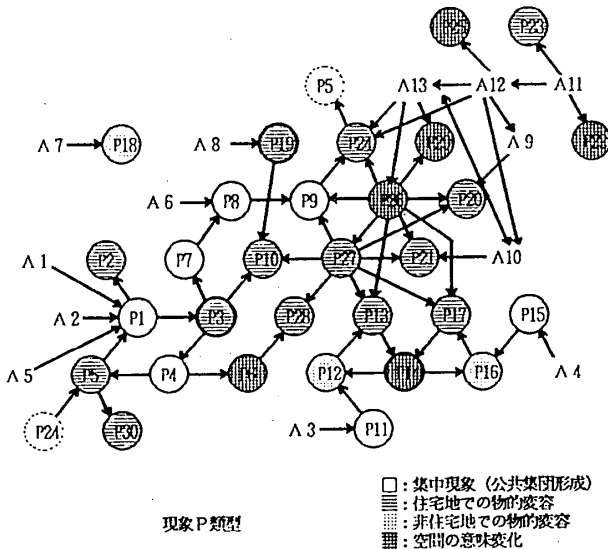


図2 現象の類型化

\*1 渡辺治建築都市設計事務所・千葉工業大学非常勤講師・工博  
 \*2 渡辺治建築都市設計事務所・学修 \*3 渡辺治建築都市設計事務所・工修

■ 1日スケールでの公共集団行動

- P 1 → P 2
- P 1 → P 3
- P 3 → P 4
- P 4 → P 5
- P 5 → P 1
- P 4 → P 6
- P 3 → P 7
- P 7 → P 8
- P 8 → P 9
- P 3 → P 10
- P 6 → P 10
- A 1 → P 1 (公共集団 1)
- A 2 → P 1 (公共集団 1)
- A 3 → P 11 (公共集団 2)
- A 5 → P 1 (公共集団 1)
- A 6 → P 8 (公共集団 3)
- P 5 → P 30 (公共集団 5)
- P 11 → P 12
- P 12 → P 13
- P 13 → P 14
- P 9 → P 14
- A 4 → P 15
- P 15 → P 1
- P 15 → P 16
- P 16 → P 17
- P 17 → P 14
- P 14 → P 16
- P 14 → P 12

■ 世代スケールでの公共集団行動

- A 9 → P 20
- A 10 → P 21
- A 11 → P 22
- P 22 → P 23
- A 11 → P 24
- P 24 → P 5
- A 12 → P 25
- A 12 → P 24
- A 12 → P 9
- A 12 → A 10
- A 13 → P 26
- P 26 → P 9
- P 26 → P 13
- P 26 → P 17
- P 26 → P 20
- P 26 → P 21
- P 26 → P 24
- P 26 → P 27
- P 27 → P 13
- P 27 → P 9
- P 27 → P 17
- P 27 → P 20
- P 27 → P 21
- P 27 → P 10
- P 27 → P 24
- P 27 → P 28
- P 6 → P 28
- P 26 → P 29
- A 12 → P 29
- A 13 → A 10
- A 13 → P 29
- A 13 → P 24
- A 9 → A 13
- A 10 → A 13
- A 11 → A 13
- A 12 → A 13

■ 1週間スケールでの公共集団行動

- A 7 → P 18 (公共集団 4)

■ 1年スケールでの公共集団行動

- A 8 → P 19
- P 19 → P 10

表2 行動現象相関関係

- P 1 : 中心市街地付近での交通渋滞の発生 (公共集団 1)
- P 2 : 道路沿線沿いに商店の誘発
- P 3 : 行政による道路の拡幅、公共交通の充実、道路の増設
- P 4 : 自動車、公共交通手段による移動の利便性の増大
- P 5 : 郊外住宅地開発の誘発 = 都市の拡大
- P 6 : 交通の利便性増大による地価高騰
- P 7 : 駅利用者の駅への集中現象
- P 8 : 駅周辺の商業の誘発 = 駅前商店街の誕生
- P 9 : 駅周辺の住宅地に商店の混在の誘発、環境の変容
- P 10 : 都市計画道路指定で道路拡幅された両側敷地の狭小化
- P 11 : 都心の商業地域に一時的な人口集中 (公共集団 2)
- P 12 : 中心業務地区及び周辺に商店の誘発
- P 13 : 中心業務地区周辺の住宅地への商業の混合の誘発
- P 14 : 商業の混在率が高い地区に対して行政による色の塗替え
- P 15 : 昼間に中心業務地区に集中
- P 16 : 業務施設の誘発
- P 17 : 都心業務地区周辺の住宅地への業務施設の誘発 = 住宅地に業務混在
- P 18 : 郊外道路での交通渋滞の誘発 (公共集団 4)
- P 19 : 行政が街路の直線化・道路の拡幅
- P 20 : 通勤圏内に共同住宅の誘発 = 住宅地に共同住宅の混在
- P 21 : 大学近辺・通学圏内に共同住宅誘発 = 住宅地に共同住宅混在
- P 22 : 子供部屋を子供が使用する = 部屋が意味を持つ
- P 23 : 増改築の誘発
- P 24 : 新築住宅の誘発
- P 25 : 子供部屋が空く = 部屋が意味を喪失する
- P 26 : 住居が空になる = 家の意味を喪失する
- P 27 : 住宅の建て壊しの誘発
- P 28 : 建て替え、敷地の細分化、共同住宅化
- P 29 : 空地・空家に人が住む
- P 30 : 建て替え・移り住み等の時間・空間的集中現象 (公共集団 5)

表3 連鎖される現象